（様式１）

小学校の指導改善プラン（学校用４～６年）　　和泉小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題　○成果　▲課題			
	第４学年	第５学年	第６学年
国語	○知識・技能の正答率が高く、漢字の読み・書きの力は定着している。 ▲「書くこと」特に記述式の正答率は低く、質問を的確に理解し、適切な言葉で表現することに課題がある。	○知識・技能、漢字の読みの正答率が高く、定着している。 ▲「書くこと」特に適切な言葉を選んだり、文を書き直したりする問題の正答率が低く、考えを適切な言葉で表す表現力に課題がある。	○全国の平均正答率を上回っている。 ▲漢字の書き、言語文化の正答率が低い。また、聞くことや文学的な文章の正答率も低い。基本的な知識の定着が低いことがうかがえる。
社会	○歴史や生活など、応用問題の正答率が比較的高い。記述問題に対して自分の知識を表現する力が見られる。 ▲全国平均を下回っており、社会分野においての苦手意識が見られる。特に知識・技能分野への苦手意識が見られた。	○記述式や応用問題、思考・判断・表現の正答率が比較的高く、自分の知識を活用し、表現する力がある。 ▲「くらしをささえる水」や、「ごみの処理と利用」についての理解が不足している。また、用語や語句で答える問題の正答率が低く、正しい用語や語句の定着が不十分であることがうかがえる。	○全国の平均正答率を上回っている。 ▲外国・都道府県の位置や工業地帯の位置を正確に理解していない。また、記述式への無回答の割合が高く、記述式の正答率が低くなっている。正確な知識の定着と記述への抵抗感をもっていることがうかがえる。
算数	○数や計算の分野は正答率が高く、基本的な知識・技能が身に付いている。 ▲時間や時刻についての知識や道のりの求め方に対する苦手意識がうかがえる。	○数や計算の分野は正答率が高く、基本的な知識・技能が身に付いている。 ▲立体図形や面積・体積については正答率が低いため、図形への感覚を育てる必要がある。また、記述式の問題に対する苦手意識がうかがえる。	○全体的に正答率が高く、基本的な知識・技能が身に付いている。 ▲「単位量当たりの大きさ」や「割合」の正答率が低く、面積の正答率が区の平均よりも低くなっている。正確な公式やもとにする量を読み取ることへの苦手意識がうかがえる。
理科	○知識・技能分野の基礎的な理解は概ね伴っている。思考・判断・表現についての正答率は高く、知識を生かしながら学習をする能力が身に付いている。 ▲記述する課題については、知識や理解に係る語彙の不足や表現の仕方の課題がある。	○思考・判断・表現の正答率が比較的高く、自分の知識を活用する能力が身についている。 ▲昨年度と比較して、全体的に正答率が低い。特に、「人の体のつくりと運動」と、「季節と生物」の単元について、基礎的な知識・技能の定着に課題がある。	○「振り子の運動」や「天気の変化」は他の単元より比較的正答率が高い。 ▲全体的に正答率が低く、特に「流れる水の働き」と「土地の変化」の問題の正答率が低い。全体的に基礎の定着が不十分である。

授業改善の方針	
国語	文章の内容を正確に理解できるよう、中心となる語や文を見付けて要約する学習を重点的に行う。そして、理解したことをもとに、自分の考えを書き表す学習を設定する。国語の基礎的な力を身に付けるため、日常的に文章を読んだり、書いたりする学習を設定する。
社会	問題解決型の学習を通して、児童が学習課題に対して自分の考えをもち表現する活動や、その考えを学級全体で共有し話し合う活動を多く取り入れる。また、授業の終わりや単元の終わりにはまとめの時間を設け、定着させたい知識・技能を身に付けさせる。
算数	児童の身近な事象から問題を設定するとともに、主体的に学習に取り組めるような環境づくりに配慮する。また、着目する点を児童が明確にもてるような教材を多く準備し、互いの考えを伝え合いながら理解できるようにしていく。既習事項をもとに児童一人一人の考えを広げて授業を行っていく。
理科	事象・現象に進んで関わり、児童が問題解決できるよう授業展開を工夫する。問題を見い出し、予想や仮説を元に解決の方法を発想し表現する。事象・現象に対し疑問をもち、日常生活の身近な事象・現象に興味・関心を高めていくと共に、一つ一つの事象につながりを意識させ、自分の言葉でつながりを説明するような授業を行っていく。
音楽	自分の思いをもち音楽を通して表現できるよう、学習の場面を設定し、様々な表現方法等の知識・技能に触れられる授業を展開していく。また、ペアやグループ活動を段階的に取り入れ、友達と協働しながら「あわせて歌いたい」「あわせて演奏したい」気持ちを喚起していく。
図工	様々な材料に触れたり、用具を使ったりする中で、造形的な見方・考え方を働かせて、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さを感じられる授業を展開していく。いろいろな造形表現活動から自分の見方や感じ方を広げられるよう、造形遊び・絵・立体に表す活動を適切に行い、達成感や自己肯定感を高められるように育成する。
家庭	家庭で実践したくなるような課題設定や動機付けを行い、学習を進めていくことで、学校での学習を家庭で試そうとする主体的な意欲につなげる。また、衣食住の学びを深める際に、家族の一員としてできることは何かを自ら考え家庭生活をよりよく工夫できるような力を育てる。
体育	各単元の導入を工夫し、運動への興味・関心を高め、運動に親しむ態度の育成を図っていく。発達段階に応じた課題解決の学習を通して、運動の行い方や解決の仕方を身に付けていくようにする。また、友達とのかかわりを通して課題解決し共に運動を行うことの心地よさを味わわせる。
外国語	児童が相手意識をもち、担任と連携し楽しく活動できるようにする。一つ一つの内容が言語活動になっているかを確認しながら単元計画を作成し、児童の必然感や目的意識を喚起させ取り組むことができるようにする。また ALT とのアクティビティを通じて、英語への親しみや自然なコミュニケーションを促進させ、より効果的な学習環境を築いていく。